

振り返って

一般質問

<平成29年度>

【6月】コミュニティ活動(自治会)、消防団体制、防災体制 【9月】入間市駅前側留保地整備、防災用品購入費・防災教育、町屋通り歩道整備工事 【12月】自治会・コミュニティ、中心市街地の活性化、防災行政全般 【3月】防災行政(防災計画・財政調整基金・都市間競争)、自転車交通安全、学童保育室

<平成30年度>

【6月】伝統文化、防災(防災行政無線・体験型防災訓練・消防団員支援)、交通安全

【9月】新規歳入確保(企業版ふるさと納税・稼ぐ市役所)、青少年活動センター、小中学校のエアコン整備 【12月】地球温暖化対策及び再生可能エネルギー活用推進、入間市駅前側留保地活用、災害に強い水道事業 【3月】放課後児童対策、立川断層帯、市役所等整備計画

<平成31年/令和元年度>

【6月】シティセールス・シティプロモーション、市道の街路樹、入間市駅前側留保地への道路先行整備 【9月】入間市駅前側留保地、大規模災害・地震 【12月】子どもの権利、中学校における部活動、台風19号における情報伝達 【3月】地区センター整備、自転車活用推進、台風19号対応

<令和2年度>

【6月】地区センター整備、台風19号対応 【9月】緊急地震速報、入間市自転車活用推進計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略 【12月】命を守る危機管理、中心市街地活性化、「稼ぐ」入間市とトップセールス

委員会など

福祉教育常任委員会(副委員長)、基地対策特別委員会、公共施設最適化検討特別委員会(副委員長)、決算特別委員会、議会広報委員会、瑞穂齋組合議会議員 ※令和3年1月現在



長年、推進会議メンバーとして参加している入間わんぱく相撲。



定例の議会の終了ごとに、街頭でご報告させて頂いております。



毎年サンタ役で参加させて頂いている保育園のクリスマス。



新たに就任された杉島市長。政策の議論を重ねていきます。



応援しています!



(※五十音順)



大塚 拓

衆議院議員
(前内閣府副大臣)



齊藤 正明

埼玉県議会議員
(元埼玉県議会議長)



杉島 理一郎

入間市長

内村さんは、私が入間の地ではじめて選挙を戦った時からの、長年の同志です。苦しい時期にも陰で支え、時に奮起を促してくれた内村さんは、兄の様な存在でもあります。

人口減少社会を迎えて社会・経済が大きく変動する今日、国と地域との連携がますます重要となっています。市議会議員として、国とも連携し、困難に果敢に立ち向かう内村さんは、入間市の発展に不可欠な存在です。

希望に満ちた新時代をつくるため、内村さんとともに全身全霊で働いてまいります。

内村ただひささんとはもう何十年もお付き合いになります。入間のために共に走り回ってきたことには枚挙にいとまがありません。

青年会議所の理事長時代など地域の若きリーダーとしての活躍は多くの方々が知るところかと思えます。

東日本大震災の際には被災地応援のために、内村さんが応援物資を届けに、私はその物資を集めるチームとして組んだことがありましたが、困難に遭遇した人を支えることへの内村さんの情熱と愛情を改めて強く感じる機会でもありました。

これからも地域の暮らしのためにご活躍されることを、益々期待しております。

内村市議のことを「情熱人」と呼ぶ人がいます。県議時代より県市連携が必要な課題など一緒に取り組んでまいりましたが、私もその意味がよくわかりました。

昨年11月に入間市長に就任いたしました。内村市議とは入間市にいま必要な政策やあるべき姿など、共通するところと共感するところがたくさんあります。

今後は行政・議会それぞれの立場から、よりよい入間市の未来のために力を合わせ、市民の皆さまに喜ばれる仕事をしてまいりたいと願っております。



内村ただひさ 後援会

入間市扇町屋1丁目3-15 E-mail: uchimura@tadahisa.net
TEL: 04-2008-3084 FAX: 04-2008-3938

活動報告配信中!

http://tadahisa.net

内村ただひさ 検索



入間市議会議員

内村ただひさ



入間が好きだからこのまちをよくしたい!

市政レポート

情熱人

特集号 vol.12

大変多くの方々からのご期待と応援を賜り、市議会に送り出さずしていただけてから、もう4年近い月日が流れました。

思い起こせば、かつて幾つもの災害被災地に有志とともに応援に赴き、その厳しい惨状を目の当たりにしてきた経験から、まちを支える「ちから」になりたいという想いがつのり立ちあがったものの、いざ実際に活動を始めてみると、自分の力不足を思い知らされることもたくさんありました。

そんな時に折れそうになる心を支えてくれたのは、皆様からの切実な市政に対する声であり、未来への願いであり、時に感謝のメッセージでした。

市民の皆様のご期待に応えようと、暗中模索しながら、一つ一つ目の前の仕事を丁寧に取り組むことを心掛け、そのことを積み重ねてきました。今ではより大きなやりがいや解決したいテーマも増えて、日々「ちから」が湧いてきます。

これからも皆様からのお声に耳を傾けながら、謙虚に、誠実に、そしてこの街の明るい未来を信じて、「ちから」いっぱい走り続けてまいります。

今後もより一層のご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

内村 ただひさ



市議会での一般質問



小学校でのおはやし体験会

新型コロナウイルス感染症対策について

昨年来の感染拡大と「新しい日常」によって私たちの生活は一変しました。さまざまな面でお困りの方が大変多くいらっしゃることを痛切に感じております。

市でも連日対応に当たっており、議会でも継続的に協議し、緊急対策事業の補正予算成立のほか、各機関と連携・働きかけなどしています。

各種対策や支援活動は感染状況に応じて変わるとは、最新の情報は市の広報紙やWebサイトなどでご確認をいただきますようお願いいたします。

感染拡大防止に注意を払いながら、皆さまの声をお聞きし、また施策をお伝えし、引き続き対策に取り組んでまいります。

入間市 Web サイト → <http://www.city.iruma.saitama.jp/>



内村ただひさ プロフィール

昭和39年 入間市(扇町屋)生まれ / 豊岡小、豊岡中、県立狭山高卒 / 株式会社小松屋専務取締役 / 入間市立扇小学校PTA会長 / 入間市立向原中学校PTA会長 / 向原中学校区青少年健全育成推進委員会 / (一社)入間青年会議所第26代理事長 / 南三陸町の復興を支援する入間の会 / 入間市環境まちづくり会会長 / 入間市社会教育委員 / 入間市議会議員(現) / 入間わんぱく相撲推進会議(現) / 入間市郷土芸能連合会副会長(現) / おとろろうまつり企画委員長(現) / 奈賀町はやし連代表(現) / 入間交友会入間支部理事(現)

特集号目次

P.2

- ・入間市駅前側留保地活用へ再始動!
- ・道路の安心安全にも取り組んでいます。
- ・備える～災害に強い入間を目指して～

P.3

- ・おとろろうまつりの幟が復元しました!
- ・学童保育室の拡充へ!
- 子育てしやすい街へ
- ・ていーろーど命名権売却!
- 「かせぐ市役所」

P.4

- ・振り返って
- ・応援しています!



育てよう! これからの入間のちから

入間市駅前側留保地の活用へ再始動！

馬頭坂線接続道路から先行整備へ

長きにわたり要望して参りました入間市駅前側の基地跡地留保地の活用に向けた動きが始まりました。平成20年度に利用計画書が策定されたものの、動きがないままなかなか進まず、駅前の広大な敷地をどうするのか疑問に思われていた方も多いためではないかと思えます。

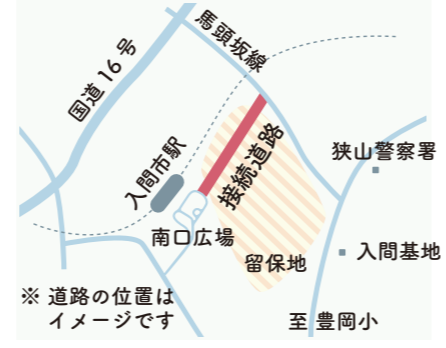
今回、計画の見直しと南口交通広場と馬頭坂線をつなぐ道路の検討が進められることになりました。

道路整備は、駅前ロータリーの拡張にもつながります。今年度末までに方針が示される見通しです。

市民の皆さんに喜ばれることはもとより、市全体および中心市街地・商店街の活性化につながるものであることが望まれます。

近年オープンした飯能市のメッツァなど、入間市を囲む近隣市では魅力的なコンテンツやブランド、サービスの誘致に成功しています。留保地の開発でも検討すべきで、市が積極的に「営業活動」をしていくことが必要です。

しかし、問題はここからです。開発には多額の資金が必要になることが見込まれます。現在の市の財政では、市だけで取り組むのは困難です。外部の民間活力の導入が必須です。PPP（公民連携）など、他の自治体での先進事例も参考に、国や県も含めた調整と実現力のあるプラン作りを働きかけてまいります。



道路の安心安全に取り組めます。



齊藤県議と現場で協議。連携が必要な問題解決は力を合せて進めます。

道路は、お年寄りから小さな子どもまで、すべての人が日々安心して移動できるものでなくてはなりません。危険な箇所などは地域の方々との現場での確認や話し合いを重ねて市に早急の改善を働きかけています。最近では、久保稻荷1丁目交差点の改良、東町交差点の指示信号増設、扇台1丁目交差点の横断歩道整備などが実現しています。

市単独では進められないものもあります。現在、県道・青梅入間線の国道16号との交差点付近の歩道拡張整備にも取り組んでいます。県に関わる場所であるので、齋藤正明県議と協議し、早速ご調整をいただき、まず県での測量がスタートします。

道路の安心・安全でお気づきの点がありましたら、お声かけください。

一昨年の台風19号は市内に大きな爪痕を残しました。現在、その対応についても検証を進めているところです。災害復興を含め地域の安心安全は私の政治活動の原点であり、様々なテーマや課題解決に取り組んでいます。

備える。災害に強い入間を目指して

岩沼市と防災協定締結

被災地に幾度となく足を運んできた経験から、自治体間の日ごろの協力体制が必要だと感じていました。これまでは、協力先自治体が県内に集中していたのですが、同じ災害に被災した場合には心もとないものがありました。

今回、県外自治体では佐渡市に続いて、宮城県県の岩沼市との協定を締結しました。東日本大震災を経験した街です。今後は、個別の協定だけでなく、複数自治体による防災都市ネットワークの構築も働きかけていきます。

災害はつらいことですが現実としてあり、時には支援に携わることもあるかもしれません。しかし、絆と経験は危機管理能力を強化します。相互の協力体制を強くすることが必要です。

消防団員免許取得補助

消防団車両には、普通免許では運転できないものがあります。そのため、消防団活動や団員加入の障害になることもありました。そこで、必要な免許取得をサポートすべく消防団員に取得費を補助する制度を要望し、他の自治体に先行して支援制度が始まりました。現在既に3人の方にご活用頂いています



- 重点テーマ**
- ・防災対策（治水強化、首都圏直下型地震対策、マンション防災等）
 - ・災害時対応（情報伝達、避難所運営、災害に強い水道づくり）
 - ・家庭内流通備蓄（ローリングストック）、防災用品備蓄の推進
 - ・消防団活動の充実化（連携協力強化、団員・加入支援）
 - ・広域「防災ネットワーク」の構築
 - ・防災ハザードマップの見直し
 - ・体験型防災訓練や帰宅困難者徒歩訓練など防災教育の推進 など

おとろろうまつりの幟を復元！

文化庁事業に採択されました！



「おとろろうまつり」のシンボルでもある幟（のぼり）が復元されました。高さは約16メートルもありとても大きいのです。

幟旗は以前に一度、半世紀ぶりに復元されたのですが、その後風雨にさらされ破れてしまい、幟竿の方も昭和の時代に使われたものを使用していたため、こちらも老朽化が進んでいました。

おまつりは伝統と文化であると同時に、地域コミュニティの絆をつなぐ大切な役割も担っています。おまつりとその道具は、地域の絆に活力を与えてくれる大切なものであり、後世に引き継いでいかななくてはなりません。自治会の加入者が減る中で、伝統文化の継承が難しくなっています。財源確保も難しく、修繕を重ねていくことも大変です。

今回、地域の方々の悩みと想いを胸に、大塚拓業議院議員にご相談をしたところ、快く応じてくださり、連携して文化庁に掛け合った結果、「平成30年度文化遺産総合活用推進事業」におとろろうまつりが採択され、修繕費用の一部が



助成されました。

修繕を終えた竿はとても長いので、交通量の少ない朝4時から吾野から運搬し、最後は集まった約40人の方々により搬入。一昨年のおとろろうまつりは、この新しいのぼり旗が掲げられ、多くの来場者を見守りました。

学童保育室の拡充へ！

学童保育室はこれまで、市が設置して直接運営する「公設公営」で実施してきましたが、その充実に向けて民間活力の導入について議会の一般質問でも取り上げました。それにより民間事業者の豊富な経験や幅広い知識を入間の学童保育に活かしてもらえることが期待できますし、職員が不足した際も柔軟に対応ができるからです。

市にも動いていただき、民営化が導入され、開室時間の延長も開始します。この4年間で3か所の学童保育室が新設・移設され

ました。令和3年度にはさらにもう1か所設置される予定です。

共働き世帯の増加や働き方、家族のかたちが変わる中、少子化が進む一方で学童保育のニーズは逆に増えています。子どもの保護者が安心して働くことができるためには、放課後の子どもたちの安全な居場所が必要になります。待機児童解消のための環境づくりとして、民営化は有効な手段と考えています。

子育てがしやすいまち入間をめざして、

もっと子育てしやすい街へ！

保護者の皆さんのお声を聞きながら、学童保育以外にも応援につながる活動に取り組んでいきます。

年	施設	運営方式
平成30年	藤沢南（第1・第2）	公設公営
平成31年	東町第2	公設公営
令和2年	藤沢東第2	公設公営
	こどものくに保育園	民設民営
令和3年	金子（第1・第2）	公設民営

最近の学童保育室整備状況

「ていーろーど」の命名権を売却し新規歳入を実現！

人口減少社会が進む中で、入間市の財政もますます厳しくなることが見込まれます。その様な中で、私は「かせぐ市役所」をかねてより訴えてきました。皆さまからお預かりする税金だけに依存するのではなく、もっと市行政自身が税金※以外の収入をみずから増やしていく知恵や工夫、努力が必要だと考えています。

（※ 交付税等の国・県からの収入・補助を含む）

昨年末にコミュニティバス「ていーろーど」の車両への企業の命名権（ネーミングライツ）の売却が実現しました。10年間で1,000万円ではありますが、この様な取り組みをコツコツ積み重ねていくことが大事だと思っています。

かねてより提起していた、「企業版ふるさと納税」

「クラウドファンディング」の導入も、新たに就任された杉島市長も同様に検討されています。

公共施設の整備でも、例えば入間にはないサービスやカフェの誘致など、施設や公園が市民の皆さまからの利用料以外の収入（事業収益）をつくる必要があると考えます。

「かせぐ市役所」に向けた改革が進むことを期待するとともに、企業誘致や移住促進も含め、市行政が「営業活動」を推進できるよう、出来る限りのことをしたいと考えています。



人口減少社会の行財政改革「かせぐ市役所」に一步前進！